

座間支援学校 学校運営協議会 議事録		開催日	令和8年3月4日(水)	
会議名	令和7年度 県立座間支援学校 第3回学校運営協議会			
開催方法	・書面 ・Teams ・散開 ・ 集合 ・その他()			
時間	開始時間	9:45	終了時間	11:15
場所	会議室		参加人数	委員6名 教職員12名
<p>1 校長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お忙しい中第3回学校運営協議会にご参加いただき感謝する。今週、来週と卒業式を控えており、子どもたちは練習に取り組んでいる。今年度の学校運営協議会では委員の皆様は校内見学もしていただいた。実際に見ていただくことで違った視点を持っていただけたのではないかと。本日は今年度の取り組みを報告する。忌憚のない意見をいただき、今後の本校の運営に反映していきたい。本日もよろしくお願いいたします。 <p>2 会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お忙しい中お集まりいただき感謝する。本会に参加することで未来を考える機会をいただいた。今後も障害があっても能力をいかせる子どもたちの教育や未来について考えていく機会としていきたい。よろしくお願いいたします。 <p>3 学校評価部会</p> <p>○各学部・分教室の活動報告について(各学部リーダー・分教室リーダー)</p> <p>【小学部・中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習に取り組んだ。体験的な学習を取り入れることで、子どもだけでなく大人も気づきや学びがあった。 <p>【高等部A部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元配列表の作成に取り組んだ。作って終わりにしない運用を考えた。来年度この取り組みを生かしていく。 <p>【高等部B部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣中学校との共同学習を行った。互いに教えあう場の設定を工夫した。中学校生徒、教員の感想から実施の手ごたえを得た。つながりを大事に継続していきたい。 <p>【有馬分教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模向陽館分教室全学年との交流を行った。有馬高校との連携では、模擬投票に向けた授業を有馬高校の教員に行っていただいた。教員の人権研修を有馬高校と合同で行い、高校と分教室の生徒が共に取り組めることを探った。陸上部の練習に分教室生徒が参加し、今後の練習に取り入れるなどの成果があった。 <p>【相模向陽館分教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けた力をつけさせることをねらい、ICT 機器を活用した授業に取り組んだ。情報や美術、国語の授業で実施した。できる部分を伸ばすことで生徒の意欲向上につなげた。 				

○意見交換（進行 会長）

- ・（委員）単元配列表はどのグループで作るのか。
- ・（高等部A部門L）高等部A部門では教員7～8名で作成した。
- ・（委員）参考にしたい。教科会などで活用できればと考えた。
- ・（副校長）他の教科との関連を見るときにわかりやすい。
- ・（委員）AIを使った作品作りなど、自身は経験がないので参考になった。
- ・（委員）近隣中学校との共同学習について、よい取り組みだと感じた。互いの様子が見えると感じ方が変わってくる。模擬投票の取り組みも同様に良い。相模向陽館分教室のタイピングの取り組みも重要だと考える。市内の小中学校もゲーム感覚で学ぶような取り組みをしている。Canvaも座間市内の小中学校で取り入れている。小2くらいから作品を作って廊下に掲示している。取り組みやすさを感じている。
- ・（委員）体験的な活動が重視されていると感じた。子どもたちにとっては貴重な環境である。地域との交流は、子どもたちをどのように見守っていくかという課題に対し、関わった人にとっても重要な時間である。学校によって地域が育まれていくためにも今後も取り組みを継続していただきたい。単元配列表のアナログな取り組みから、話し合いが見え、連携が深まると感じた。ICTを使いこなしている子どもたちに感心した。子どもたちが放課後過ごす事業所などにも情報共有していただけるとよい。
- ・（会長）子どもの発達には環境と経験が重要。実現されている。中学校の取り組みは、誰が来たのか。
- ・（高等部B部門L）支援級の生徒と教員である。
- ・（会長）私たちは障害のある子どもに対し大きなバイアスを持っていると思う。世界では障害のある子も最大限に力を発揮できるような機器が開発されているところである。インクルーシブの観点、人権と発達保障の観点から、今後も誰と何を交流するか考えていくことができるとよい。研修会でご講演いただいた精神科医は、「発達障害は存在しない」と述べていた。一人ひとり向き合っていくことが大事だと教示いただいた。学習指導要領に即しながら、能力や環境について見立てをしたうえでかかわっていくことが重要である。海外では障害のある方も多くの一般企業で勤務している。日本の未来もそのようになっていくとよい。

○校務分掌グループの活動報告について（各グループリーダー）

【カリキュラムグループ】

- ・教材研究などの時間を確保するための業務改善に取り組んだ。特に4月の行事や日課の見直しを行った。年間を通しては、各学部の授業時数を標準に近づけるための整理に取り組んだ。行うべき改善に取り組んだことにより子どもの顔を思い浮かべながら授業準備や授業研究を行うことにつなげていく。

【指導研究グループ】

- ・ICTを活用した授業に係る教員アンケートを実施し実態を把握した。長期休業中に他校から講師を招き研修を行った。6割強の教員がICTを活用できると回答した。また、食育の指導をクラスルームで実施した。

【環境安全グループ】

- ・防災部会の委員から紹介いただいたAR、VRを県教委から借用し、高等部B部門で浸水疑似体験の授業を行った。また、ボランティアによる図書コーナーの整備や装飾、児童へ絵本の読み聞かせに取り組んでいただいた。

【支援連携グループ】

- ・市内小中学校教員の研修会で、本校のセンター的機能についてアンケートを行った。専門的な話を聞いてよかった、専門的な見立てをいただけてよかったとの声があった。学校の特別支援教育の充実に課題があると感じた。今年度の巡回相談で、市教育委員会も連携し、教員も生徒も安心して学校生活を送ることにつながった好事例があった。

○意見交換（進行 会長）

- ・（委員）業務改善による下校時間の見直し等で、子どもの反応や保護者からのコメントはあったか。
- ・（小中学部 L）保護者からは思っていたほど声はなかった。下校時間が 20 分早まったことによる慌ただしさもない。
- ・（副校長）放課後等デイサービスの事業所にも協力していただき、下校時間に合わせ迎えをしていただいている。
- ・（委員）学習内容は保障されたうえで実行されているのか。
- ・（校長）学習指導要領上の年間授業時数は通常の学級に合わせることでなっている。しかし、それを大幅に上回る状況であった。特に小学部・中学部。各学部の下校時間に合わせたスクールバスの運行が難しいことが大きな理由である。検討を重ね、下校便の利用児童生徒はほとんどいないことから、該当児童生徒はバスの発車時刻まで校内で過ごす対応とした。
- ・（会長）学習をすれば伸びていく子どもに対し、教科教育を行うのが本来の姿だと思うが、どのようにしているか。
- ・（校長）現時点で準ずる教育の児童生徒は在籍していない。地域で学んでいると思われる。知的代替の生徒はいる。今後、もし入学してくることになれば、準ずる教育課程で教育活動を行う整備をすることになる。特別支援学校は自立活動を行うこととなっているので、教科の授業時間を減らして対応することになるだろう。
- ・（委員）子どもによって端末が異なるという具体について教えていただきたい。
- ・（指導研究 G L）小中学部は iPad、高等部は県でクロームブックの一括購入を案内しているが、必須ではない。子どもの適性に合わせて対応している。
- ・（委員）座間市はクロームブック。支援級には iPad も配置してどちらも使えるようにしている。
- ・（校長）座間高校ではどのような状況か。
- ・（委員）基本的にクロームブックである。高校生はキーボードでの入力が望ましいとされている。
- ・（委員）ボランティアへの呼びかけ方法はどのようにされているのか。
- ・（支援連携 G L）これまでホームページで漠然とした内容での案内だったが、今回は目的を明確にしホームページに掲載し校内保護者へは配付した。地域の方や卒業生家族の参加にもつながった。子どもの様子をよく知る保護者だからこそ、絵本の読み聞かせも「この子だからこういう本がいいかな」などボランティア同士で話し合いながらすすめてくださる。
- ・（委員）スクールバスの運行エリアを知りたい。乗車人数が少なくても運行するのか。
- ・（環境安全 G L）運行エリアは座間市、厚木市、愛川町である。乗車 1 名でも運行する。
- ・（委員）弊社では高齢者の健康診断の際バスを運行している。燃料高騰の中、人数が少ない場合は近隣地区と合わせて運行するなど調整している。
- ・（委員）「ICT を活用した授業ができる、できない」の具体的な指標は示されているのか。
- ・（指導研究 G L）文科省の調査をもとに指標を設定している。教員によって受け取り方が違い「できる・できない」の選択は変わることは推測される。担当からは以前の自身と比較して「できる・できない」を回答するよう呼びかけている。

4 部会活動報告

○切れ目ない支援部会より

- ・「知る」ということの重要性について、毎回の部会で意見が出された。部会の参加がインクルーシブを考える機会となっている、授業を参観して、ゴールをひとつにするのではなく個々のステージに合わせて設定することの気づきを得たなど、多くの意見が出された。部会員の考え方に変容も見られた。本部会の内容から具体の取り組みや成果を出すのではなく、対話を続ける草の根活動として継続していく必要性を確認した。

○防災部会より

- ・立地地盤の脆弱性、予想される被害への対応・準備を確認し、施設見学および敷地周辺の見学を行った。部会員から、高等部では自力登下校をしている生徒もいるのでハザードマップを作成できるとよい、備蓄食料や物品について生徒も知っているといよいなどの意見が出された。

○意見交換

- ・(委員) 施設見学に参加したのは誰か。
- ・(環境安全GL) 防災部会員である。
- ・(副校長) 座間市の防災担当者、消防本部署員、自治会長、座間高校副校長、入谷小教頭、などに加わっていただいている。部会員からは近隣の特性について様々な視点からアドバイスをいただいた。
- ・(会長) 自身が地域住民のため、子どもころから地盤沈下は予想していた。災害時に避難できるのか常に考えていた。実情がわかっていることがとても大切である。対策を考えられるとよい。
- ・(事務長) 校舎自体は固い地盤まで杭を打ってあるので問題ない。校舎周りの道路が浮いている状況。
- ・(校長) 本校は福祉避難所に指定されているが、座間市では実際の活用を想定していない。しかし、災害時には近隣住民が集まる可能性はある。近隣との連携が必要であり今後の課題である。
- ・(会長) 福祉避難所であることを知っておくことが大事だと感じた。
- ・(校長) だからこそ防災部会でいろいろな立場のかたと状況を知っていただき、共有することが大事だと考える。
- ・(委員) 座間高校は座間市の防災倉庫もあり、対応することとなっている。対応内容については現状に見合っているのか、座間市と見直しをしていく必要がある。
- ・(委員) 市には医療的ケアのコーディネーターがいる。関係者を交えての協議会が年2回ある。地域に在住する医療的ケアを要する方を知っていることが大事。防災部会のメンバーにはそのような立ち位置の方はいないように見受ける。災害時に座間支援学校での受け入れの可能性があるなら、関係者がメンバーに加わることも考えられるのではないか。
- ・(校長) 人工呼吸器用のポータブル電源が令和8年度配備される。
- ・(委員) 弊社では災害時に備え10キロを目安に徒歩訓練を行っている。自身も相模線沿線を歩いたが、液状化の可能性があるのでルート変更の必要性を感じた。
- ・(会長) 外国につながる子どもについて、言語の壁が理由で支援学校に入学しているケースはあるか。
- ・(支援連携GL) 外国につながる児童生徒は在籍しているが、言語の壁が理由とは聞いていない。地域の学校では障害によるものなのか言語の壁によるものなのか、対応に悩むという話を聞く。
- (会長) 海外の取り組みはインクルーシブが進んでいる状況がある。本人が困っていたら手を差し伸べる。日本は横並びの教育の中で生きづらさがあると思われる。特別支援学校の役割はますます求められる。現状を「知らない」よりは「知る」ことが重要である。

○校長より

- ・たくさんのご意見をいただき感謝申し上げます。先月、座間高校の吹奏楽部、創作舞踊部に客演していただいた。学校内の学習にとどまらない教育は貴重な経験である。地域の方との交流も増えてきている。本協議会委員や地域の皆様に支えられ、本校は非常に恵まれていると感じる。委員は1年任期となっている。来年度、委員であるなしにかかわらず、本校とのつながりを持ってご支援いただきたい。本日はありがとうございました。

6 事務連絡 (副校長)

- ・配付した保護者アンケートの説明は時間の都合上割愛する。後程ご覧ください。 (以上)

